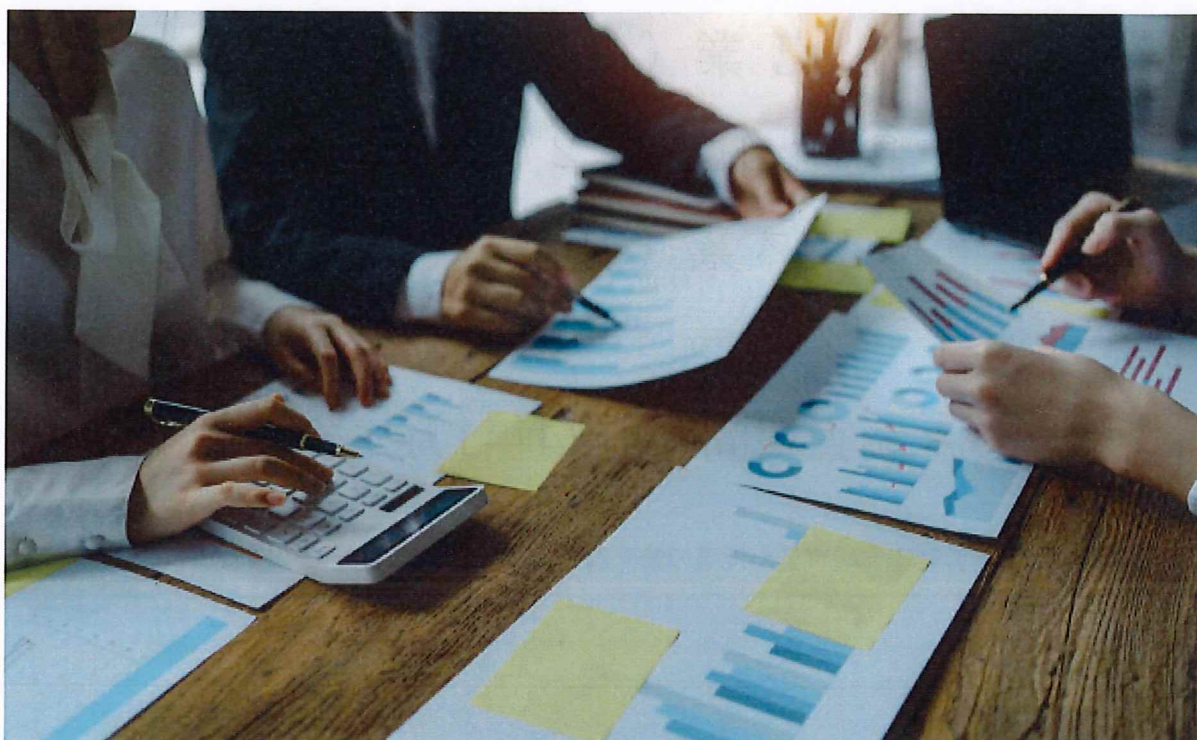


# 景況動向指数 (Diffusion Index)

(2024年1月～3月)



経営発達支援事業資料

長浜市商工会

# 調 査 対 象 事 業 所

長浜市商工会 管内100事業所

製 造 業 ( 2 0 事 業 所 )

建 設 業 ( 2 0 事 業 所 )

卸 小 売 業 ( 2 0 事 業 所 )

飲 食 宿 泊 業 ( 2 0 事 業 所 )

サ ー ビ ス 業 ( 2 0 事 業 所 )

\*調査期間 2024年1月～3月

この資料は、経営発達支援事業の地域の動向調査に関するこの目的で実施した資料です。

## \*D I とは？

本報告書の中で%以外に用いているD I 指数とは、デフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略です。

各調査項目について増加（上昇、好転、長期化）企業割合から減少（低下、悪化、短期化）企業割合を差し引いた値を示します。

D I が+（プラス）なら強気（楽観）、-（マイナス）なら弱気（悲観）を表します。

例えば売上高で増加企業 50%、不変企業 30%、減少企業 20%の場合、

D I 指数・・・ $50\% - 20\% = 30$  となり、全体として経営者の売上に対する強気の度合いを表しています。

製造業（2024年1月～3月）DI 値抜粋

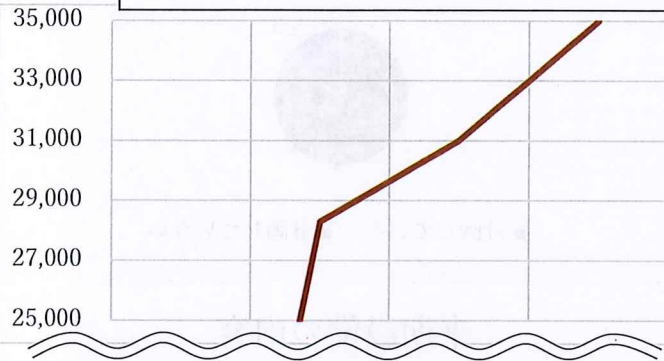
コメント

製造業の業績判断にかかるDIは、下げ止まりから、再び低下傾向にあり厳しい、需要減退、原材料価格上昇と人材不足の三重苦の状況である。

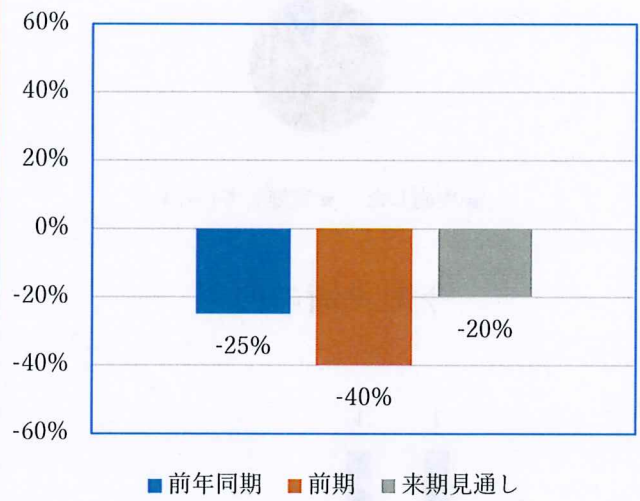
売上DIは前年同期▲25、前期▲40 来期▲20 と足元で失速して先行きも厳しい。資金繰りDIについては前年同期▲15、前期▲35 来期▲100 と低下傾向である。原材料仕入単価DIの上昇が顕著で、前年同期+65、来期見通しとも+55 と原価上昇の影響を上げる企業が過半である。従業員増減DIは前年同期+10、来期見通し▲5 と低調な動向である。能登地震の影響も少なからずあったとの声がある。

設備投資については低調ながら今期、来期とも低調である。直面している経営の問題として、材料価格情報、需要停滞、従業員確保難、人件費の増加を上げる企業が多い。個別の声として、物価上昇が急激に加速したので材料単価は上がったが加工単価は低いままであるという厳しい声の一方、中国への輸出が大幅に減少のため、取引会社からの受注が大幅に減少した。主要原材料の仕入れ価格は落ち着き始めた。製品単価の値上げ交渉も成立し、2月売上分より転嫁の予定。現在の課題は熟練者人材を強化し、総人件費に見合う全体的な労働生産性を上昇させることを目指したい。といった声もある

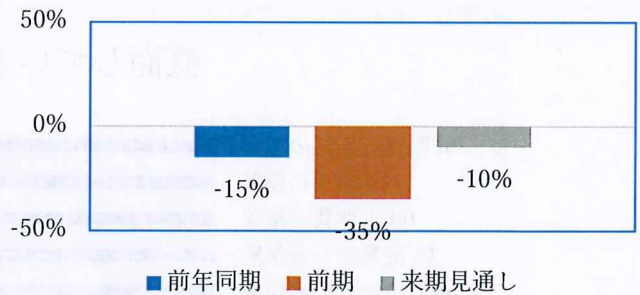
売上推移（千円）



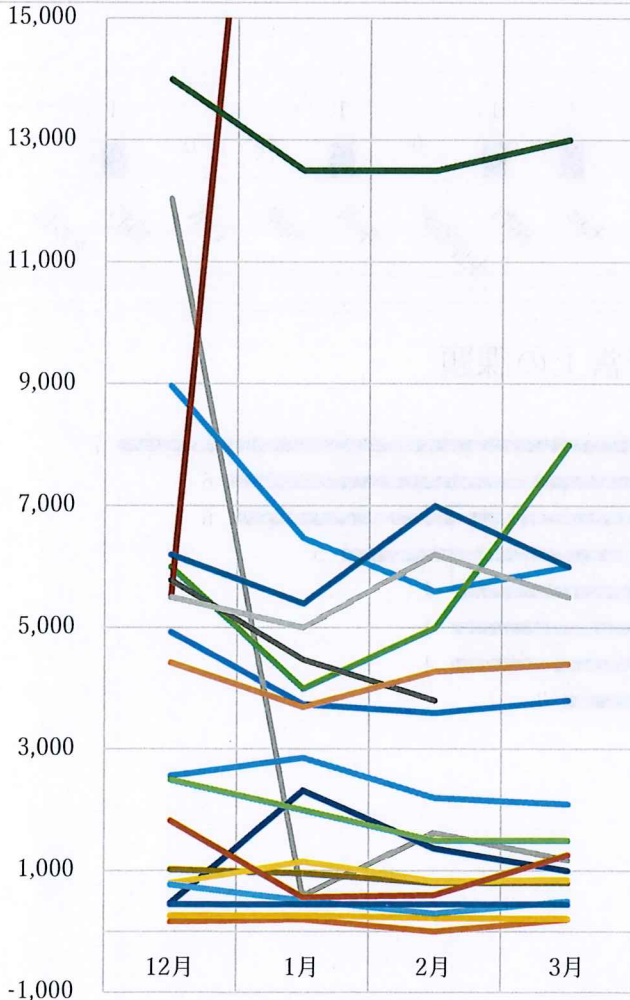
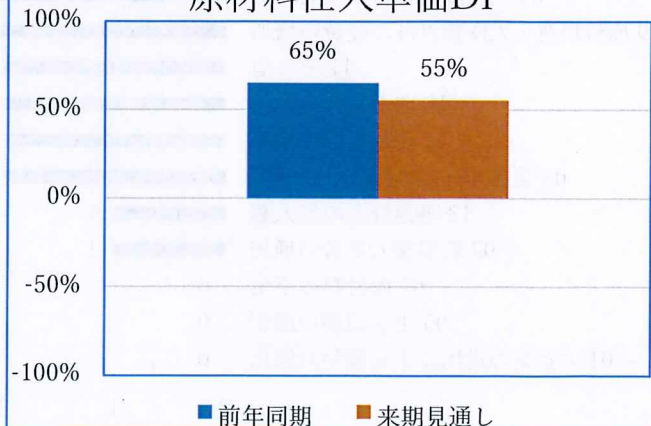
売上DI



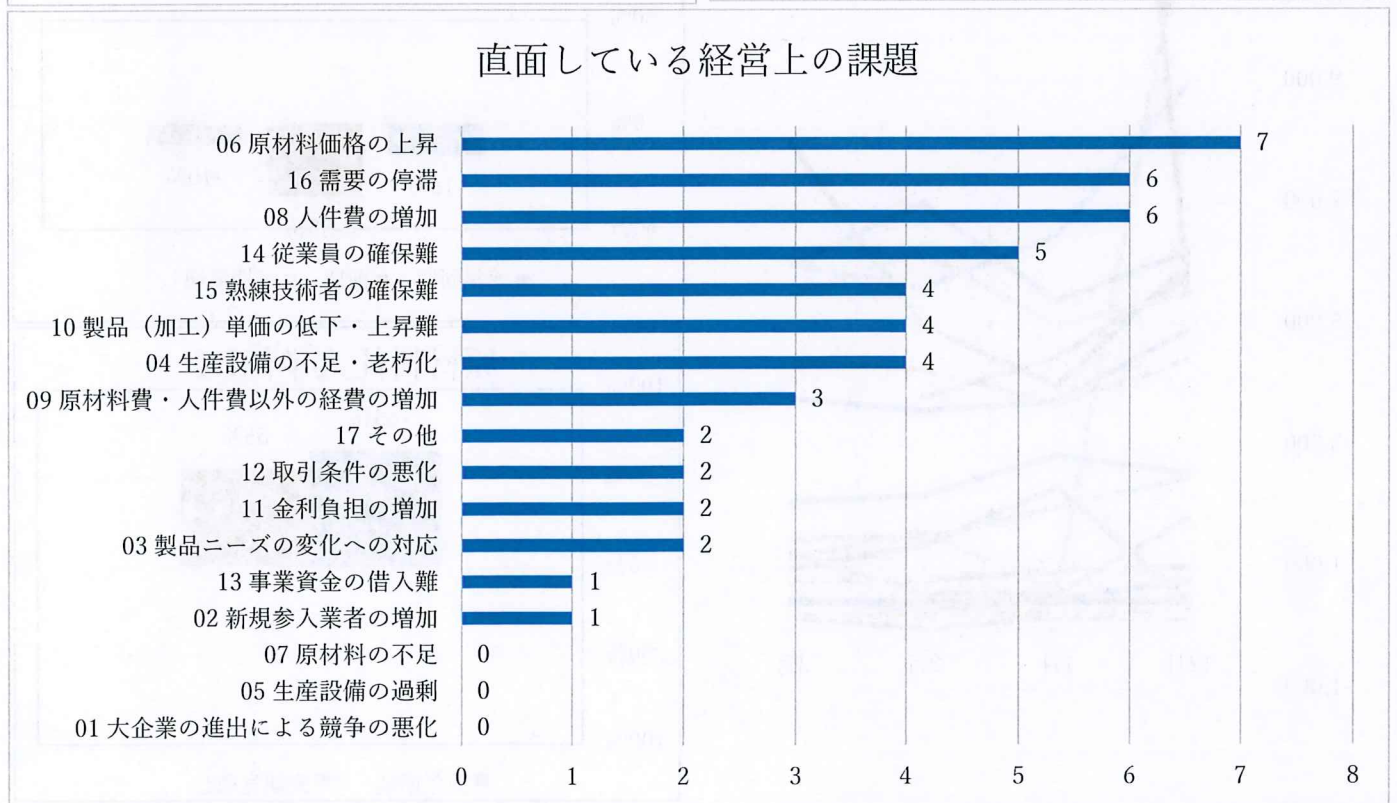
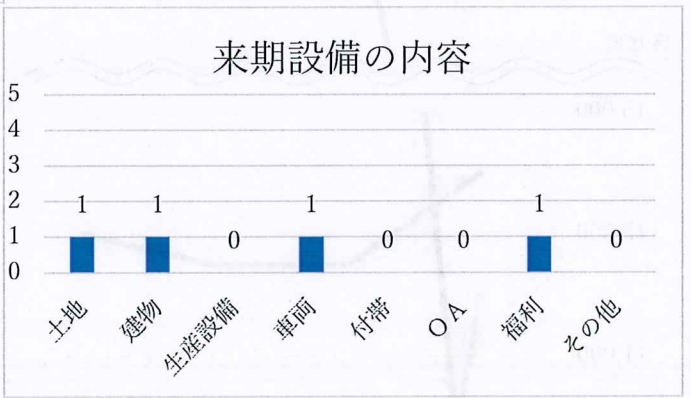
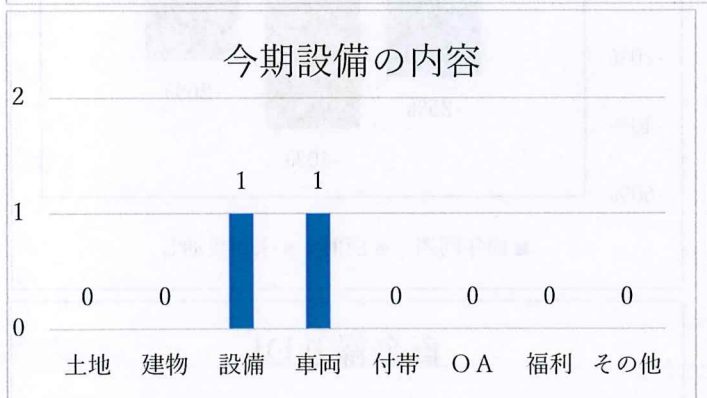
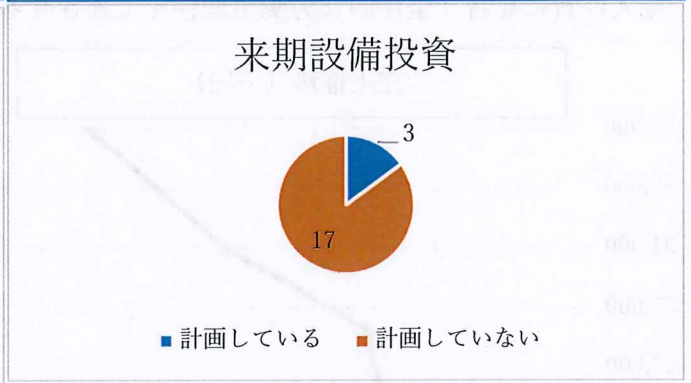
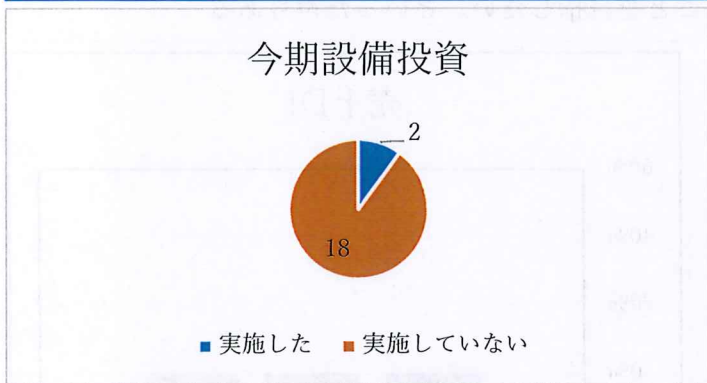
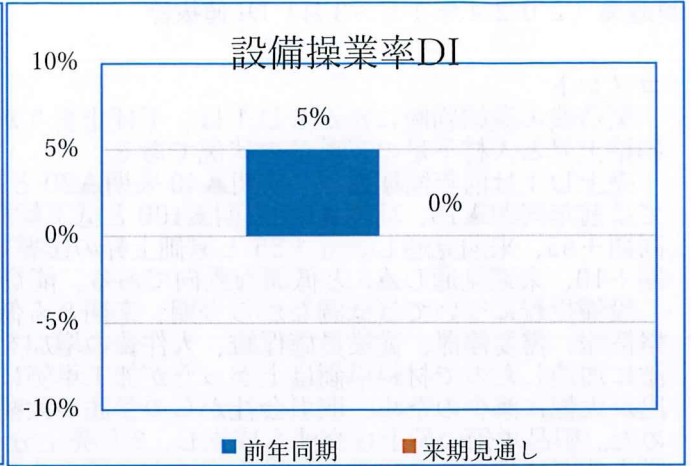
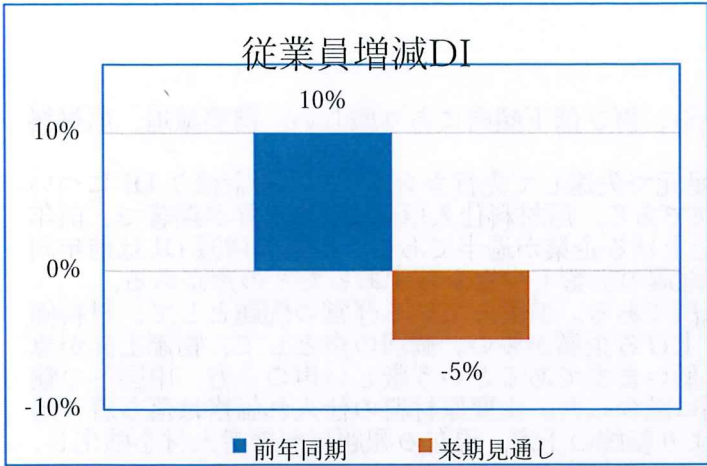
資金繰りDI



原材料仕入単価DI







コメント

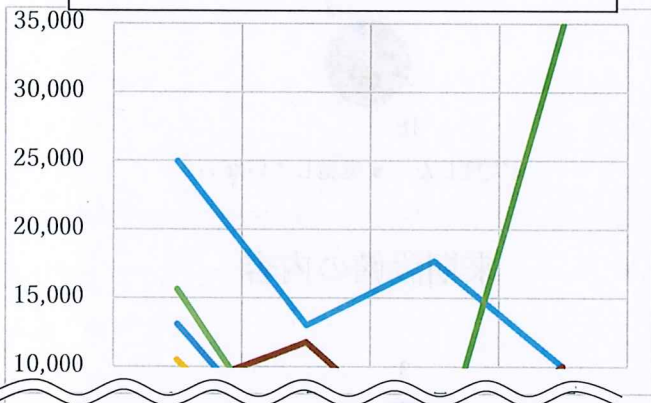
建設業の業況は、低調な状況が続いている。依然として原材料価格等経費の上昇による採算面資金繰り面の厳しい声が続いている状況である。

完成工事高DIは前年同期▲10、前期▲15、今後の見通しは▲10と回復の傾向から転落に転じている。

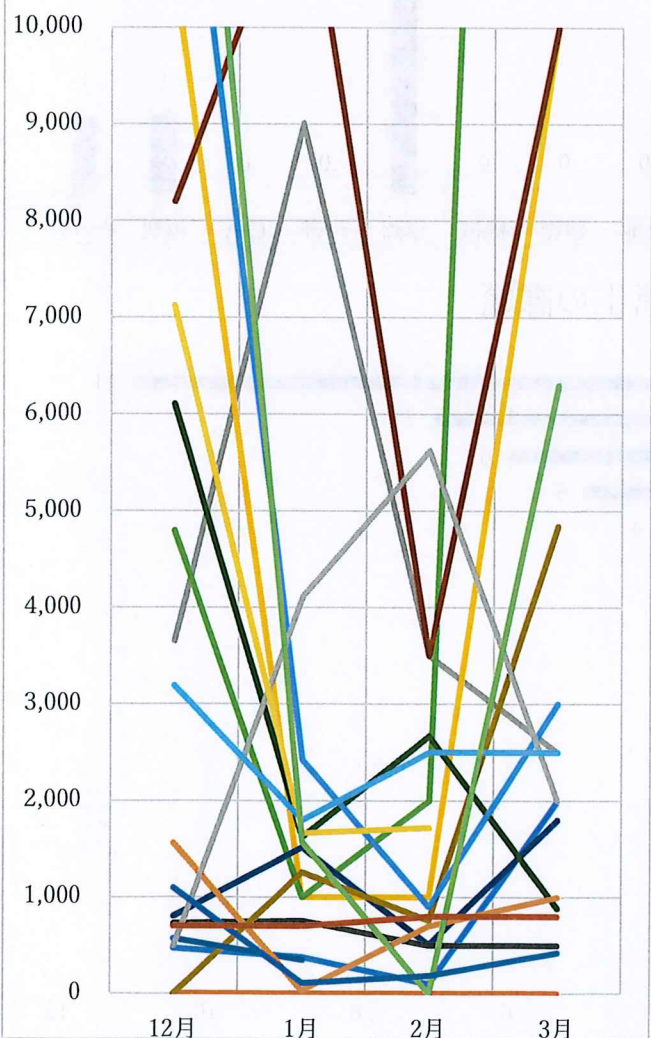
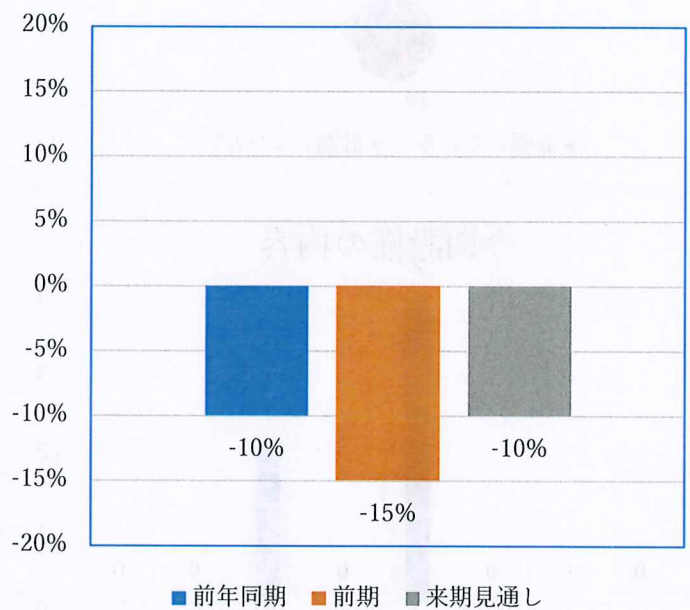
原価上昇を上げる声が続く引き続き多く、前年同期で値上がり+55と過半の企業において材料の値上がりの影響があると回答している、来期見通しも+40と依然として上昇を懸念する声が多い。採算DIも前年同期▲25、来期も▲10と不安の声が多い。資金繰りも前年同期▲30、前期比▲25、見通しは▲30と資金繰りが厳しい状況が続いている。設備投資も車両など最低限のものにとどまる。

直面している経営課題として、材料、経費の上昇を上げる企業が多く、受注単価への転嫁が難しいという声もあり厳しい経営環境が浮き彫りとなっている。個別の声としては、受注が思うようにとれていない。元請工事がない状況で給湯器など一ヶ月待つものもある。長浜で現場が少なく遠方で受注すると経費が高くなる。古民家を改修するコストが上昇し受注が難しい、職人の確保が難しい。人手が足りない状況が続いているので、若手の育成や人材の確保ができる環境やシステムが必要。受注は増えるが人手不足という声がある。

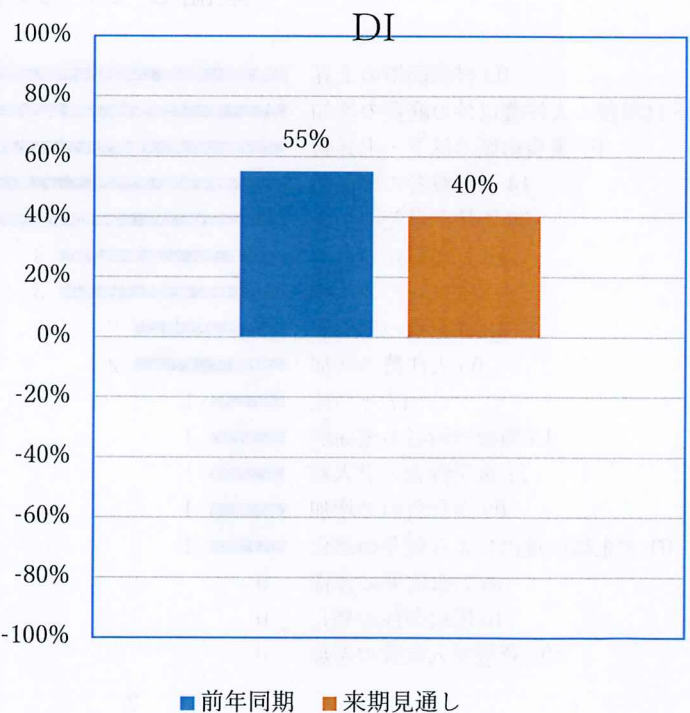
売上推移 (千円)



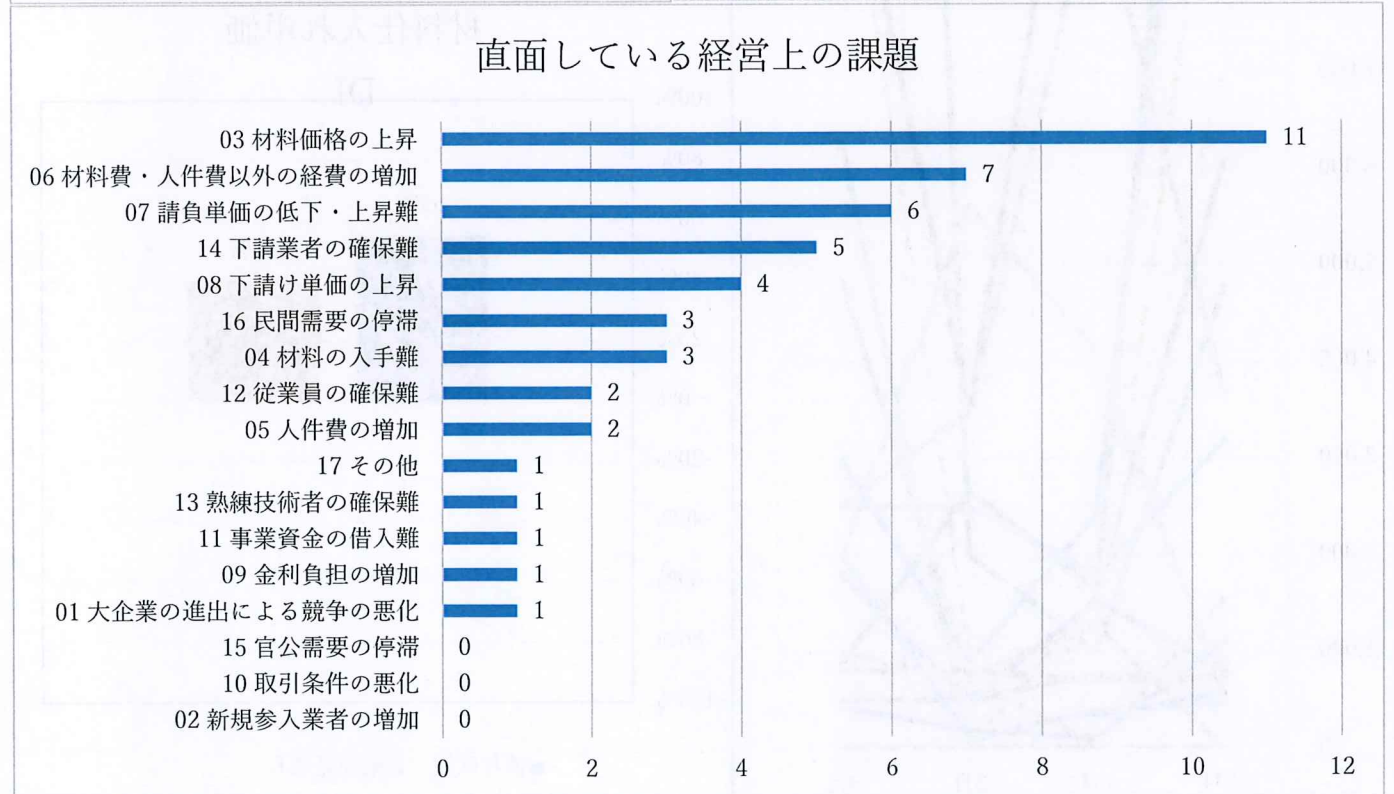
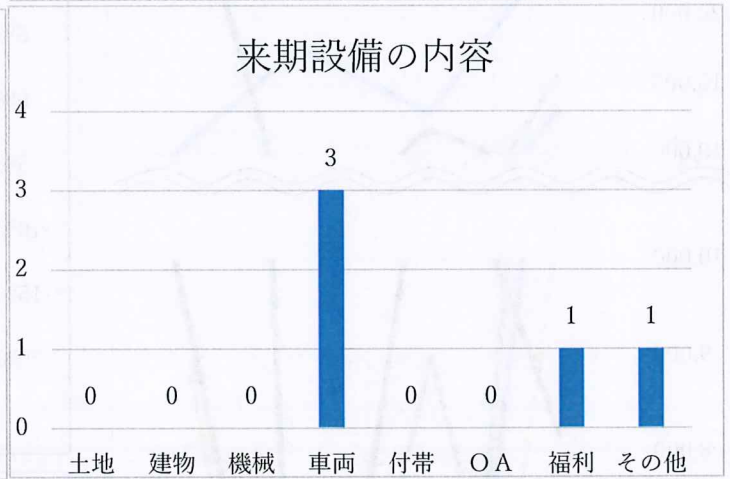
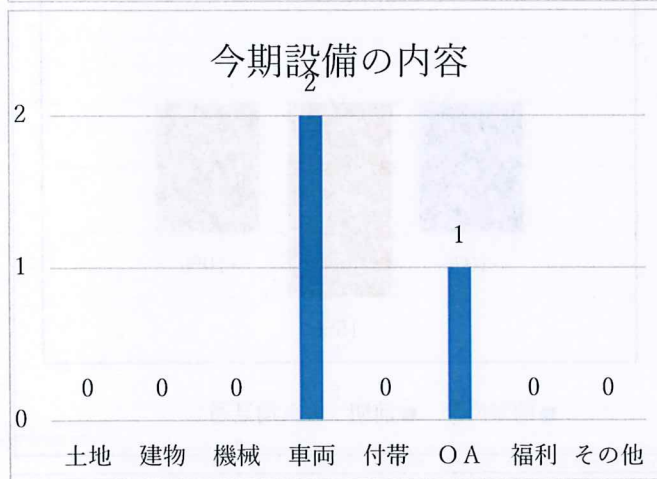
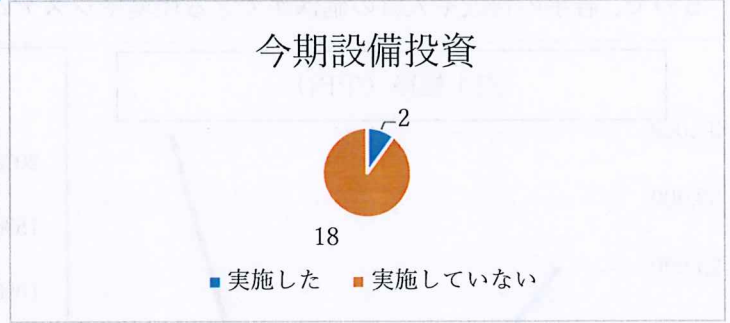
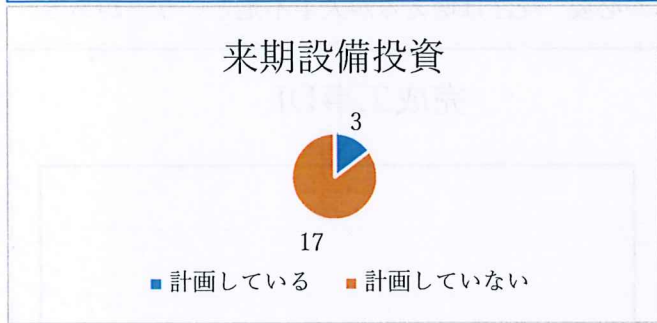
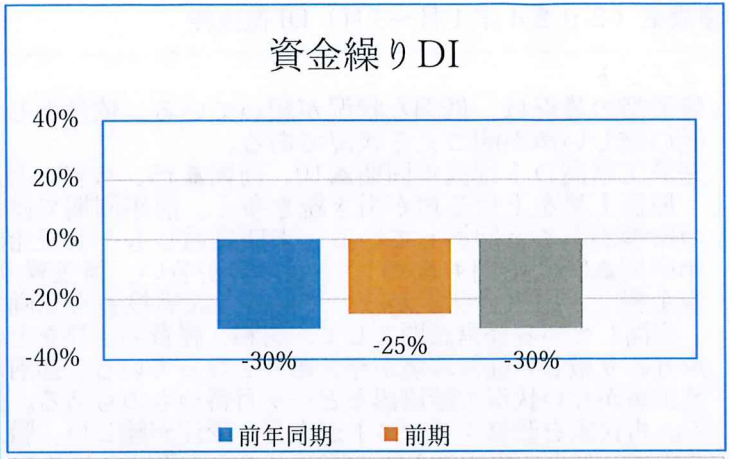
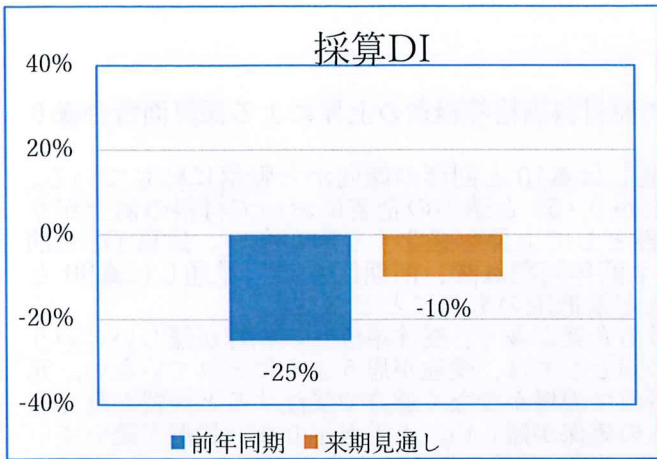
完成工事DI



材料仕入れ単価





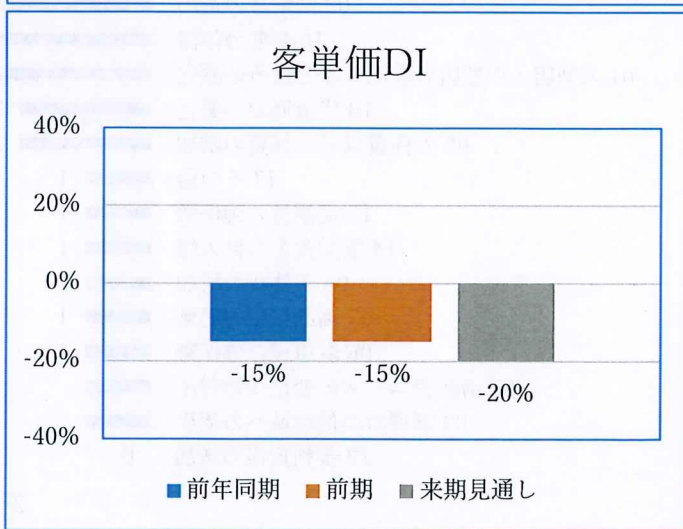
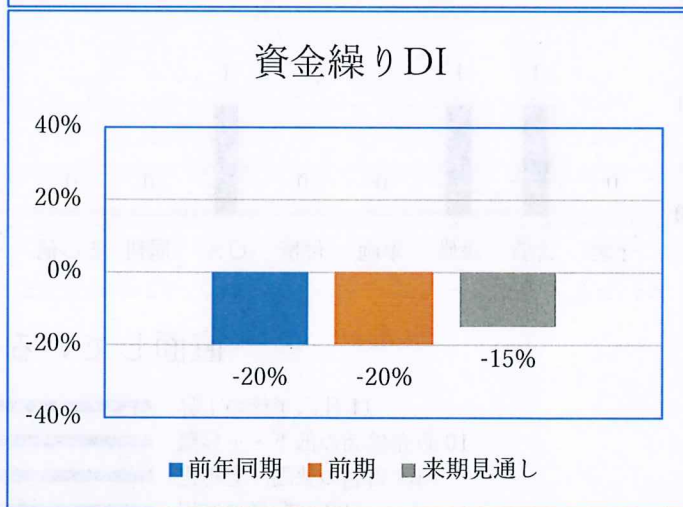
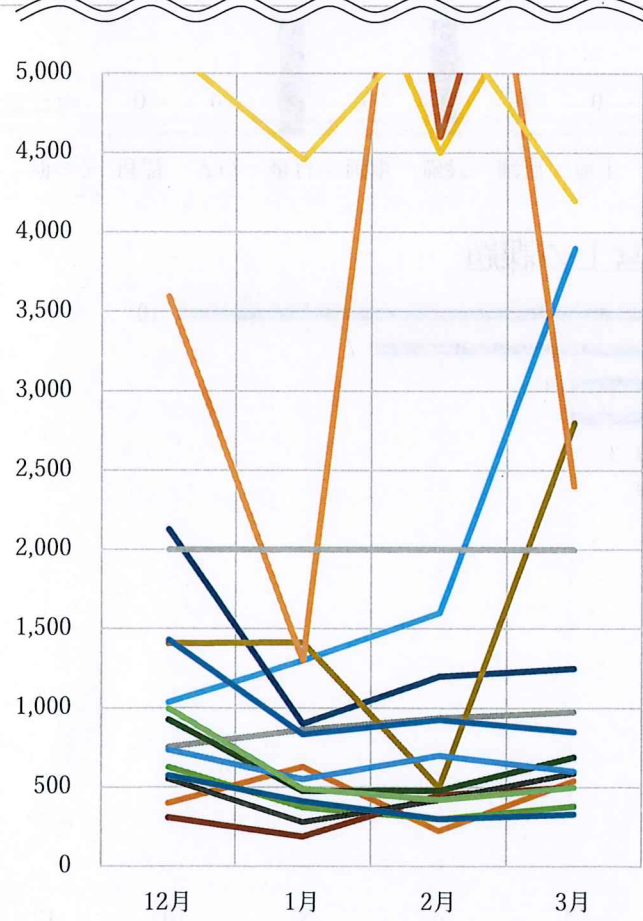
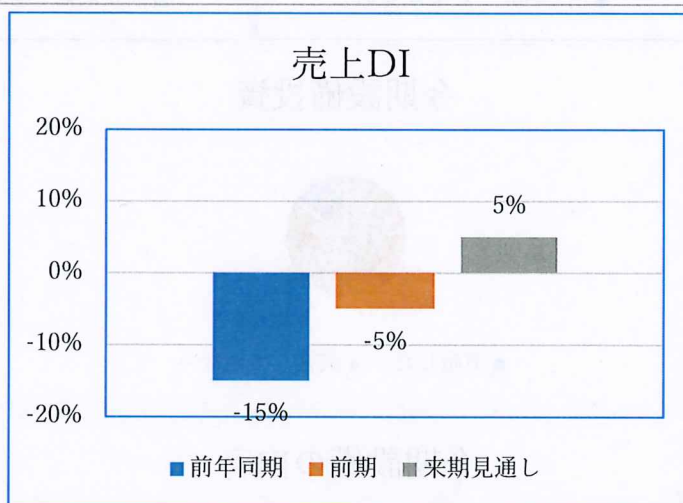
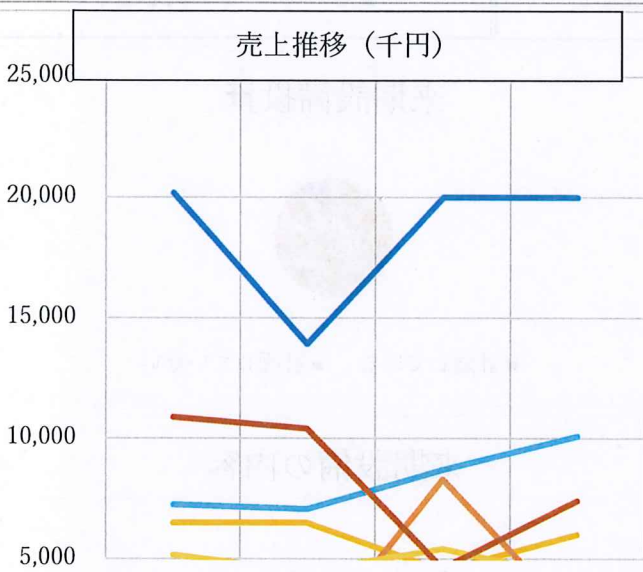


卸小売業（2024年1月～3月）DI 値抜粋

コメント

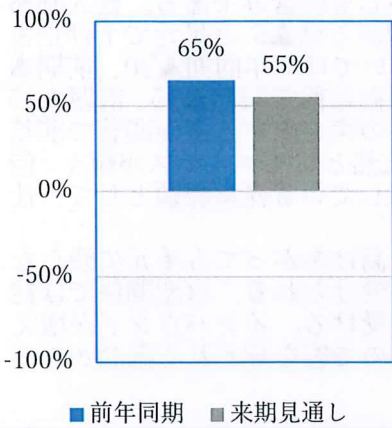
卸小売業の業況に関するDIは、低調な状況が続いており先行きの見通しも弱含みである。仕入価格の上昇で採算悪化、資金繰り不芳が続く。売上DIは前年同期▲15、前期からは▲5と足元で下げ止まり。来期の見通しは+5と若干ながら改善の声がある。資金繰りDIについては前年同期▲20、前期▲20、来期も▲15で依然として資金繰り不安の声が大きい。客単価の減少傾向は前年同期▲15、前期▲15と低調で、来期見通しも▲20と回復が見えない状況である。仕入単価上昇の声を上げる声が顕著で前年同期+65、来期見通しも+55と原価上昇が収益を圧迫しており採算DIも依然としてマイナスが続く。借入難度の前年同期▲5、来期見通しは▲10と不安の声が続いている。直面している経営課題として、仕入れ価格上昇、販売単価低下と収益低下に関する課題が顕著である。

個別の声として、仕入価格上昇分を売買価格に乘せきれていない。売上高はあがっても手元に残らない。賃金上昇が物価高に追い付いていないためか、支払の悪い客が多く見受けられる。水産関係では琵琶湖の水温の上昇で湖魚の収穫が安定しないので不安。天候による影響を受ける。インバウンドが増えており売り上げが堅調という声もある。また、平和堂が移動販売を始めるので客を奪われる懸念から小規模食品日用品小売りは厳しいという声もある。





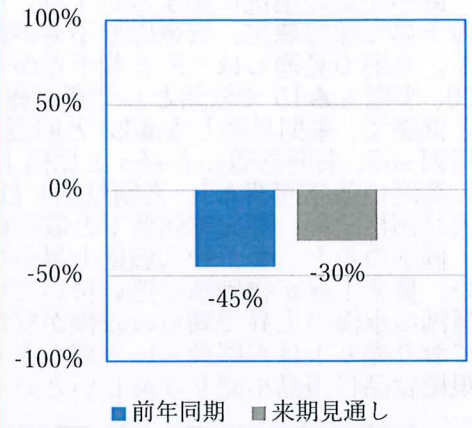
### 商品仕入単価DI



### 長期借入難度DI



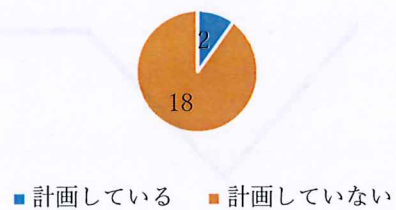
### 採算（経常利益）DI



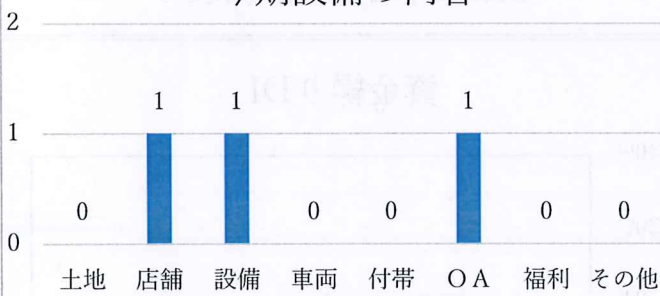
### 今期設備投資



### 来期設備投資



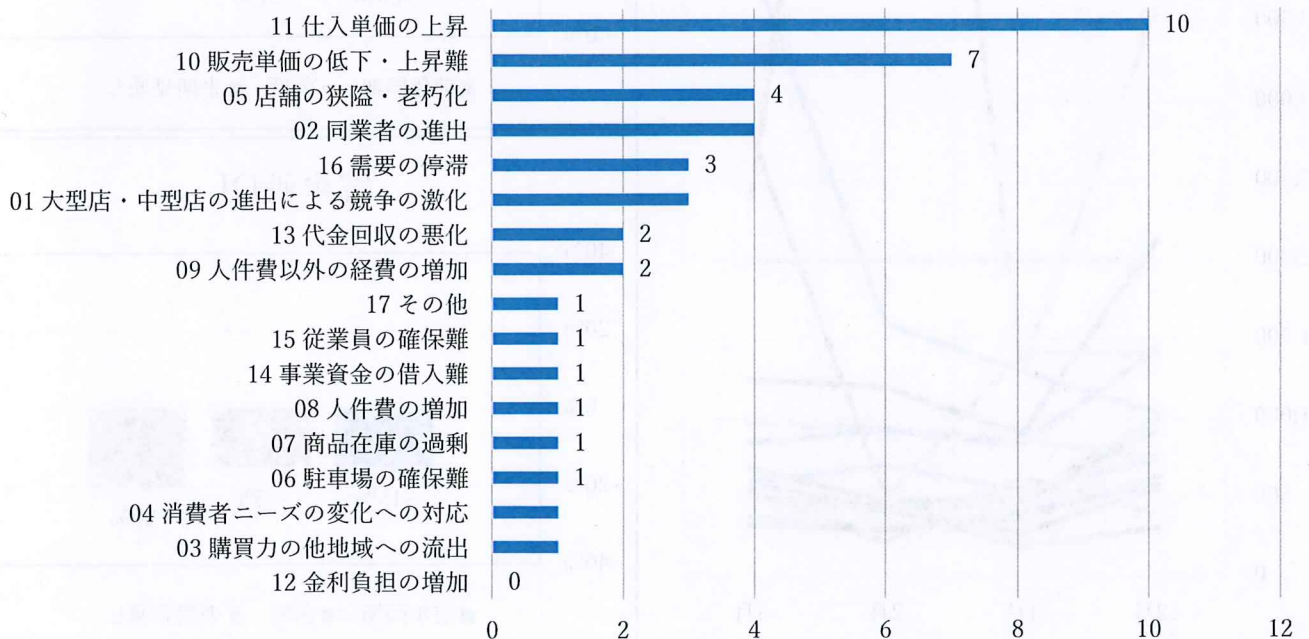
### 今期設備の内容



### 来期設備の内容



### 直面している経営上の課題



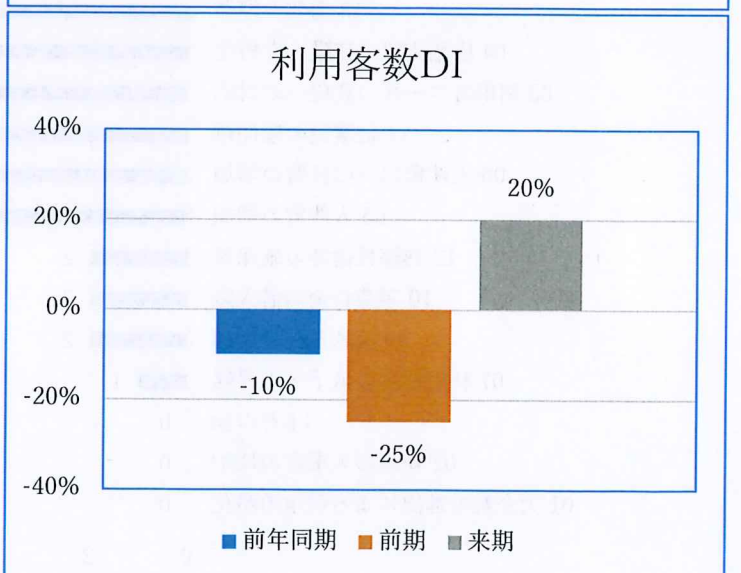
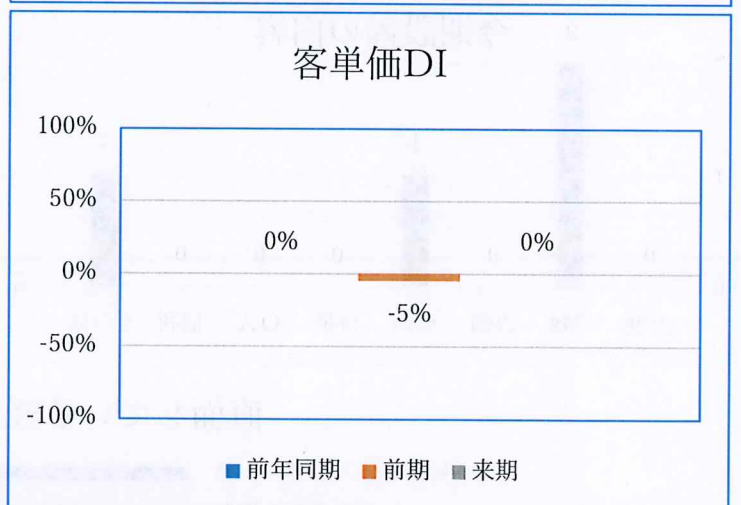
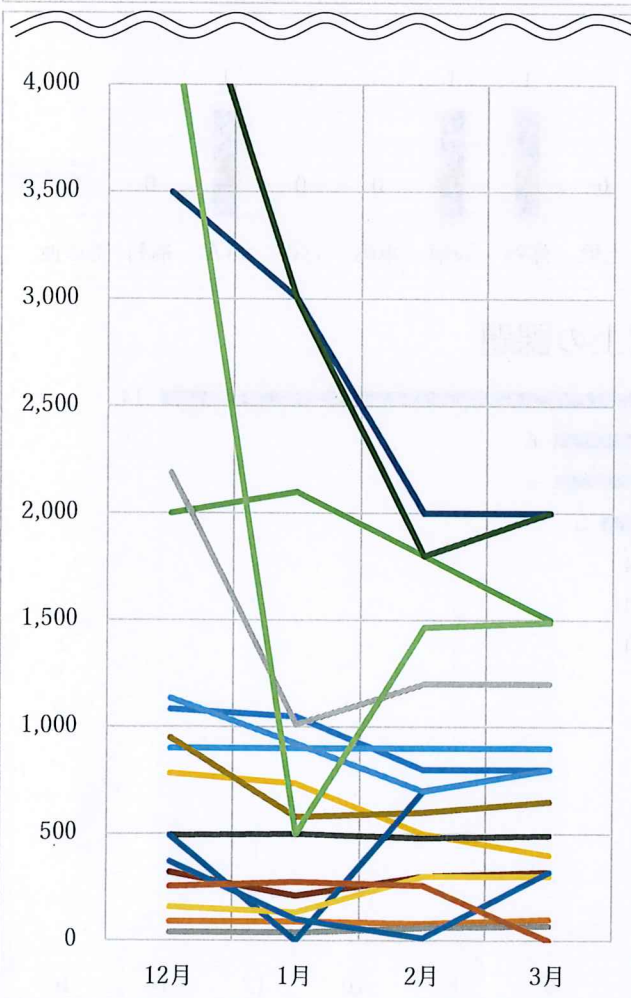
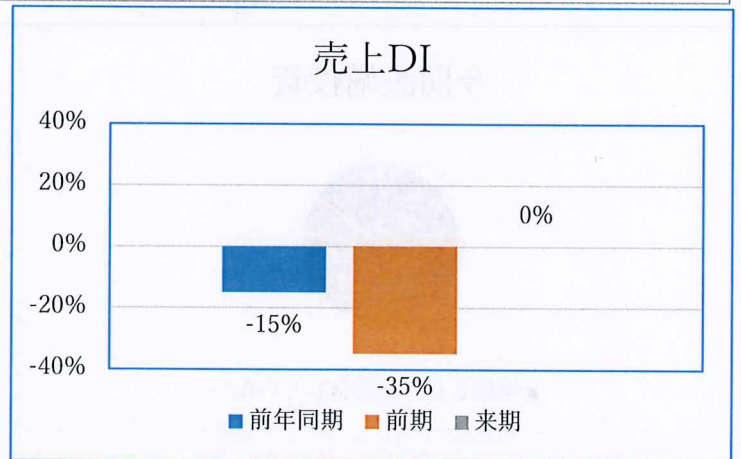
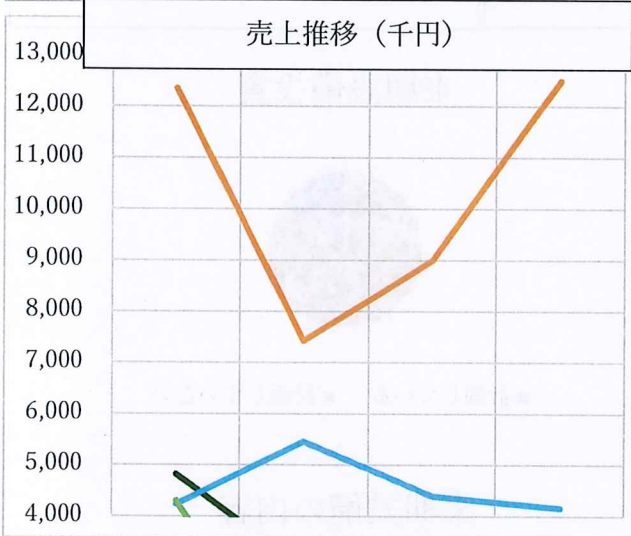


飲食宿泊業（2024年1月～3月）DI 値抜粋

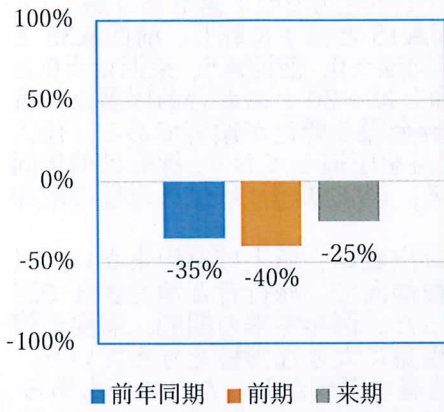
コメント

飲食宿泊業の業況に関するDIは、他業種より回復傾向は見受けるがまだ足元での下落もあり厳しい。原価コスト上昇により採算面は厳しい状況である。売上DIは前年同期▲15と低下に転じ、前期▲35と冬場で落ち込んでいる、来期は±0と拮抗している。客単価DIは前年同期±0、前期▲5、来期は±0と低調な状況が続く。利用客数DI前年同期▲10、前期▲25、今後の見通しは+20とおおむね堅調な状況が見受けられる。資金繰りDIは前年同期▲35 前期▲40 来期▲25と資金繰り悪化が顕著である。仕入単価の上昇が前年同期+85 来期見通しとも+70と原価上昇の状況が収益を圧迫しており、採算は前年同期▲45 来期見通し▲40と厳しい見通しである。設備投資は低調である。経営課題には仕入単価の増加のほか、需要停滞、店舗設備の老朽化を上げる事業者が多い。

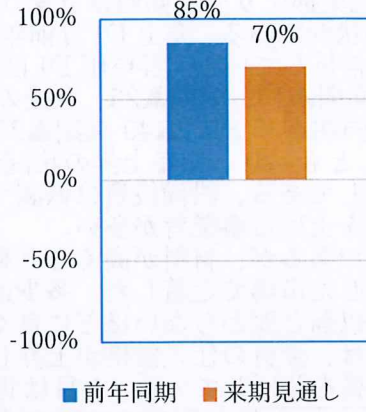
個別の声として、昨年より良い状況であるが、材料が高くなり利益は出ない、値上げが出来ない。以前のような冠婚葬祭はなくなり、縮小した市場で定着した。多少は回復傾向で、旅行者と地元客とで店の景気がよくなった。旅行に関しては以前と変わらないほどに良くなった。例年冬季の期間、需要が停滞し、厳しい期間である。さらに今期は、食材の仕入価格が上昇し、損益に大きな影響を与えている。また、人件費の増加も負担増となり影響を及ぼしている。1月は北陸地震の影響があったとの声もある



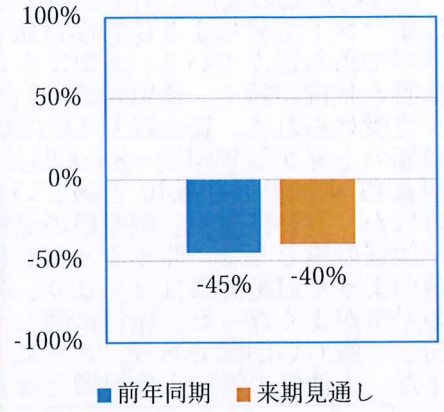
### 資金繰りDI



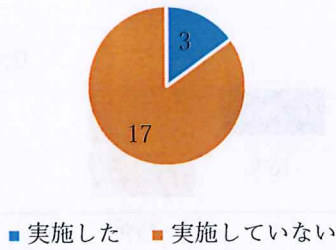
### 仕入単価DI



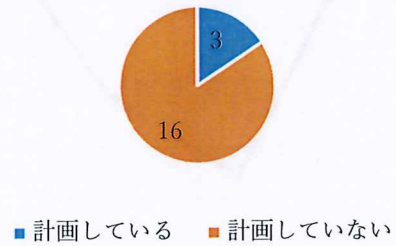
### 採算（経常利益）DI



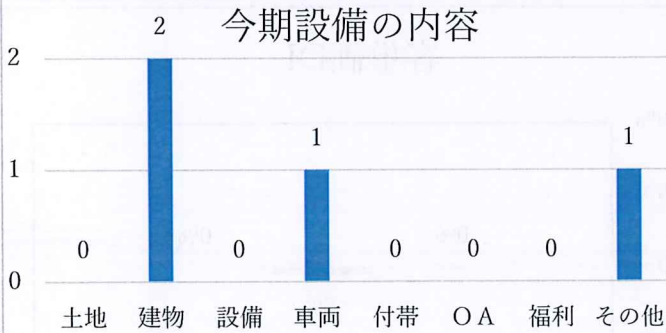
### 今期設備投資



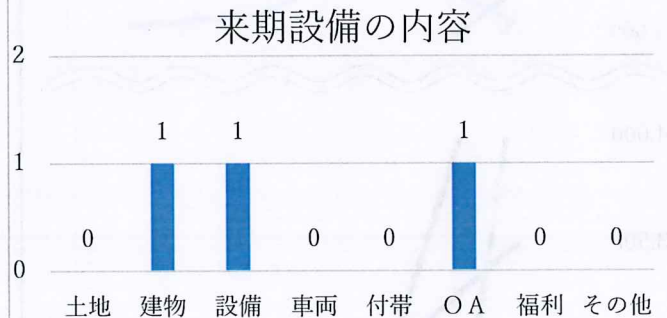
### 来期設備投資



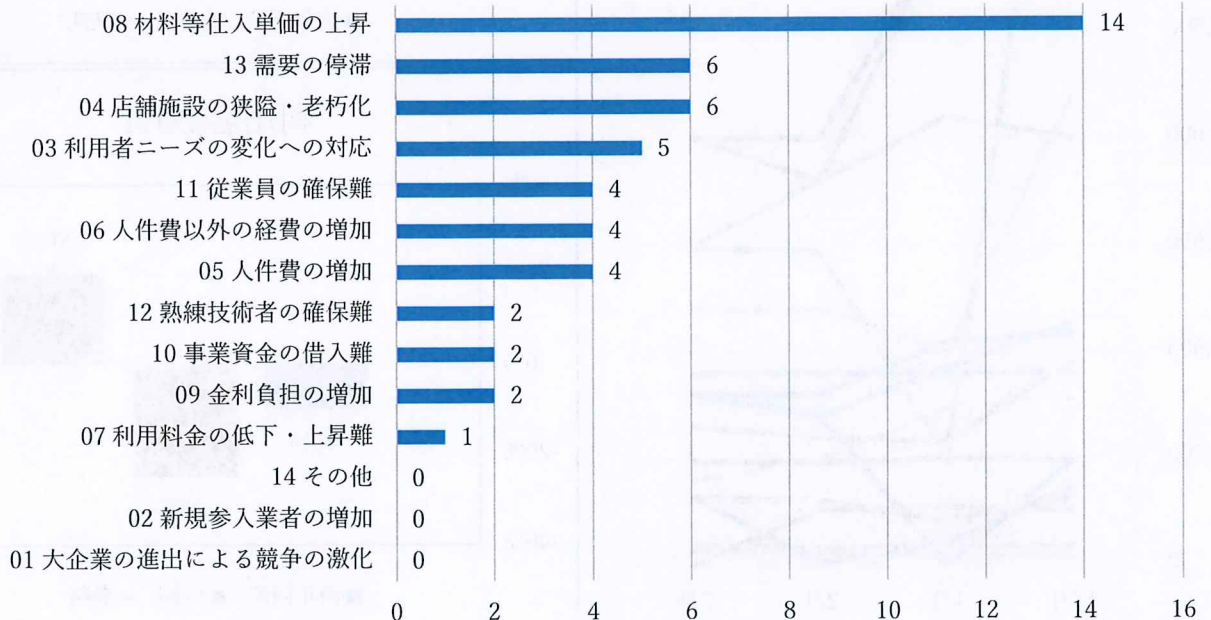
### 今期設備の内容



### 来期設備の内容



### 直面している経営上の課題



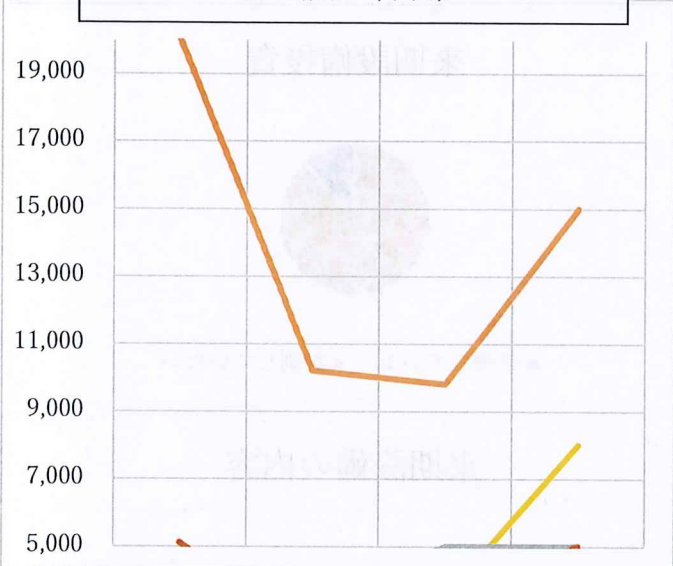


サービス業（2024年1月～3月）DI 値抜粋

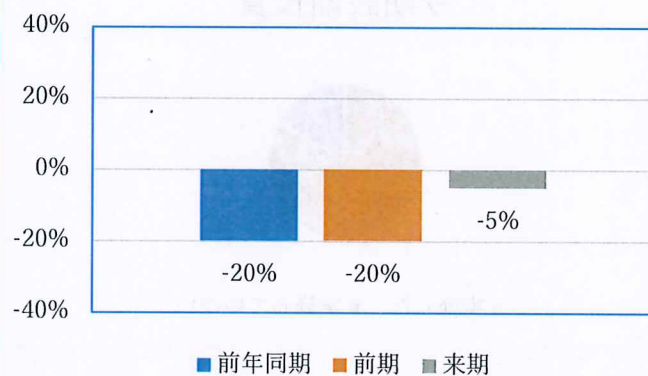
コメント

サービス業の業況は他業種同様に原価上昇の影響はあるが、業績回復の傾向は見受けられる。売上DIは前年同期▲20、前期▲20と来期見通し▲5と下げ止まりの傾向である。客単価DIは前年同期+5、前期±0、今後の見通しは+10と若干の回復状況である。客数DIは前年同期+10 前期▲5、今後の見通しは+10と若干の改善傾向である。資金繰りについて前年同期▲10、前期▲10 来期も▲10と低調である。仕入単価DI 前年同期+55 来期見通し+45と原価上昇の傾向が続く。採算DIの前年同期▲20、来期見通し▲10となりコスト高が採算面に悪影響を与えている。設備投資については低調である。個別の声としては、美容室において積雪で予定していた予約のお客様のキャンセルが相次ぎ続いた。室内営業といえども天候というものは大きなファクターであるといつも痛感させられる。物価高が個人消費の混迷へとつながっている。仕入高上昇や施設の装置費用上昇も負担が大きい。物価高の影響があり料金もあげづらい状況になっているので世間状況を見極めるのと、市などの補助等やペイペイの企画をどんどんやって頂きたい。そのほか、キャッシュレス決済の必要性を理解しながらついていけないという声もあった。

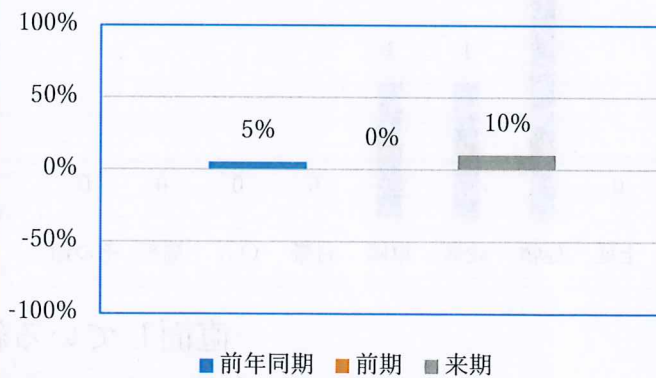
売上推移（千円）



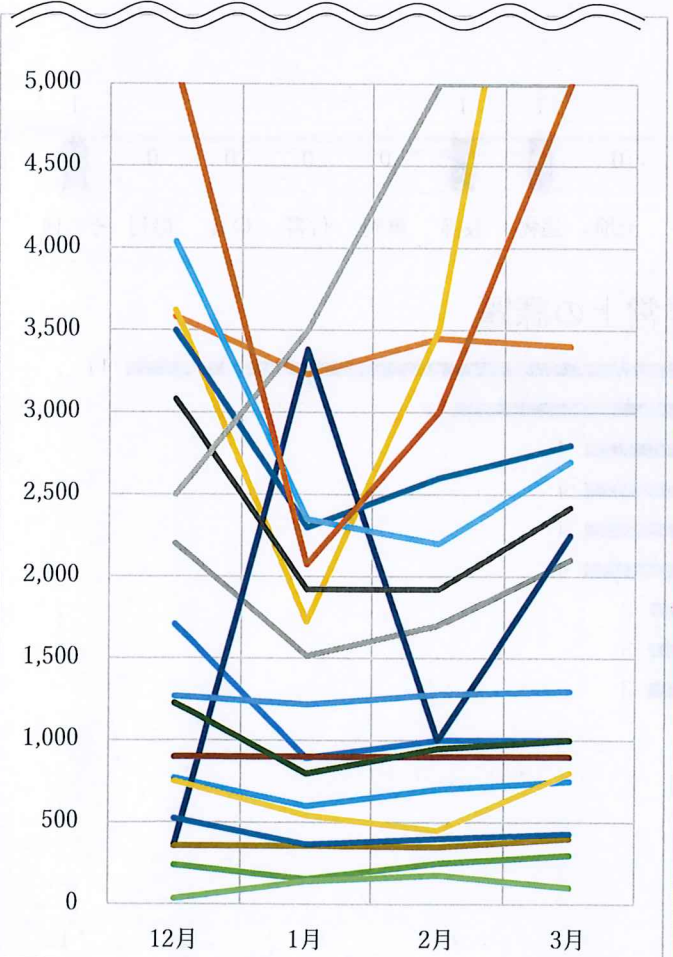
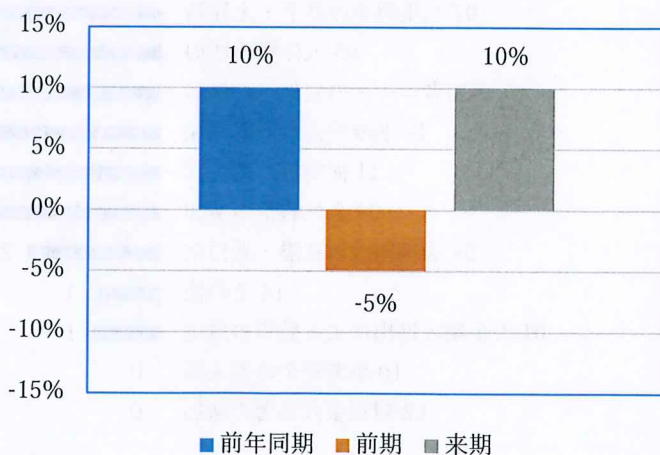
売上DI



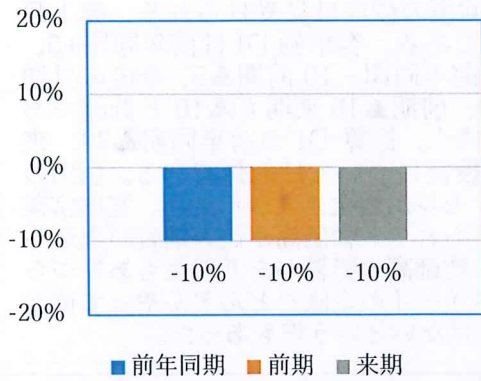
客単価DI



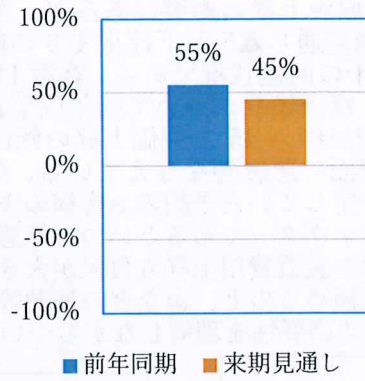
利用客数DI



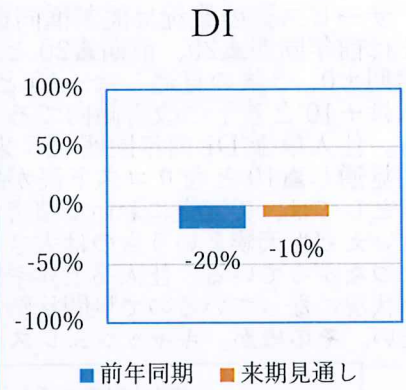
### 資金繰りDI



### 仕入単価DI



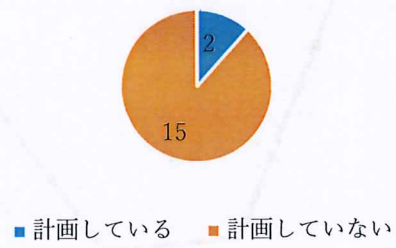
### 採算（経常利益）DI



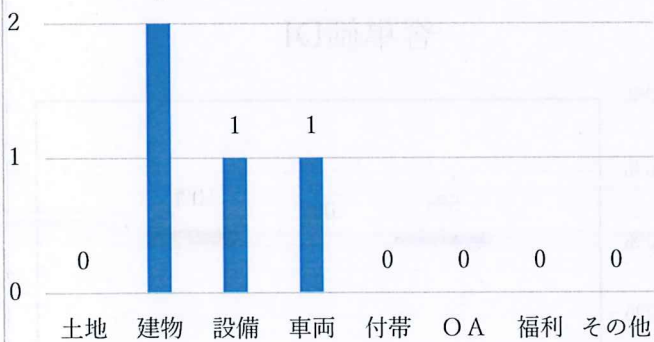
### 今期設備投資



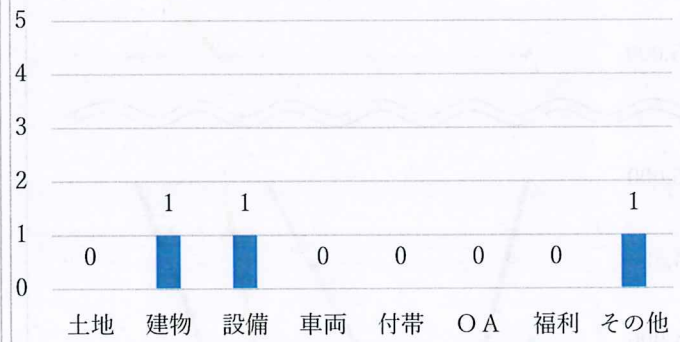
### 来期設備投資



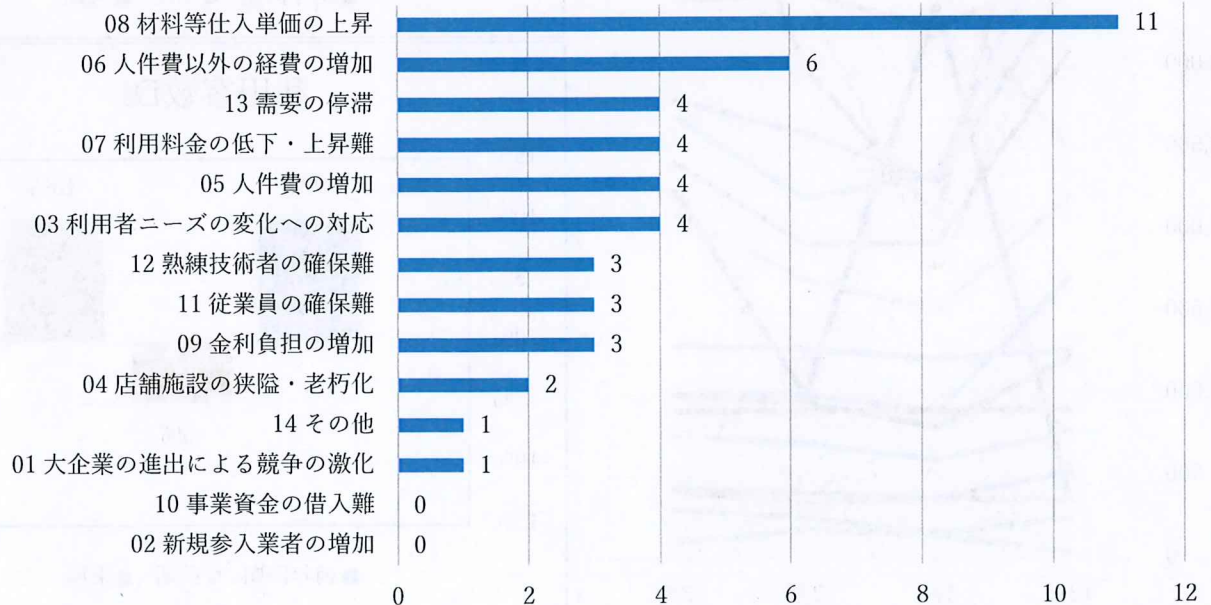
### 今期設備の内容



### 来期設備の内容



### 直面している経営上の課題





## 小規模企業景気動向調査 [2024年1月期調査]

～高止まりするコストに続き、震災や暖冬の影響で改善傾向に歯止めがかかる小規模企業景況～

### <産業全体>

1月期の産業全体の景況は、採算DIがわずかに改善し、資金繰りDIが小幅に改善した一方で、業況DIが小幅に悪化し、売上額DIが大幅に悪化。全産業で売上額DIが悪化した。前年同月比で見ると、全DIが改善し、採算・資金繰り・業況DIにおいては2桁ptの改善をしているものの、コスト高騰に加え、一部では震災や暖冬での積雪量減少による影響も見られ、改善傾向に歯止めがかかった。

DI	12月	1月	前月比
売上額	153	81	▲72
採算	▲180	▲168	12
資金繰り	▲169	▲141	28
業況	▲92	▲113	▲21

### <製造業(食料品、繊維、機械・金属)> 業種ごとにバラつきはあるが、引き続き好調を維持する製造業

製造業は、資金繰りDIが小幅に改善、業況DIが小幅に悪化し、売上額DIが大幅に悪化した。食料品及び繊維関連は、売上額DIが大幅に悪化した一方、前年同月比では、売上額DIが2桁pt超の大幅改善と好調であった。人手不足の影響からの機会ロスや、人件費高騰への対応に苦慮しているとのコメントが目立つ。機械・金属関連は、全DIが悪化に転じ、売上額DIが大幅に悪化。メーカーの生産ラインが、調整により停止しているとのコメントがあった。

DI	12月	1月	前月比
売上額	176	105	▲71
採算	▲174	▲178	▲04
資金繰り	▲170	▲139	31
業況	▲78	▲104	▲26

### <建設業> 民間・公共事業を中心に好調も、人手不足が深刻化する建設業

建設業は、売上額DIが小幅に悪化、採算・資金繰り・業況DIは改善を示した。売上額DIは、前年同月と比較すると2桁pt超の大幅改善となった。民間・公共工事ともに受注が増加しており、他業種に比べて好調を維持している。一方で、以前にも増して、人手不足の問題が深刻化しており、思うように売上アップに繋がっていない。能登地震の復興需要が本格化すれば、さらに人材確保難が深刻化するとコメントがある。

DI	12月	1月	前月比
売上額	156	124	▲32
採算	▲219	▲197	22
資金繰り	▲227	▲157	70
業況	▲122	▲120	02

### <小売業(衣料品、食料品、耐久消費財)> 前年比2桁改善も、物価高による消費低迷が課題の小売業

小売業は、採算DIがわずかに改善した一方で、業況DIが小幅に悪化、売上額DIが大幅に悪化した。前年同月比では売上額は改善している一方で、他業種と比較すると、全DIで弱さがみられる。衣料品及び食料品関連は、売上額・業況DIが大幅に悪化した。高単価商品の買い控えなど、物価高による消費低迷が、大きく影を落としている。耐久消費財関連も売上額DIが大幅に悪化。7期連続でプラスを維持していたが、マイナスに転じた。消費低迷に加え、暖冬による暖房器具等の需要低下がみられる。

DI	12月	1月	前月比
売上額	112	20	▲92
採算	▲221	▲210	11
資金繰り	▲184	▲186	▲02
業況	▲137	▲173	▲36

### <サービス業(旅館、クリーニング、理・美容)> 震災の影響も見られ、業況回復への道のりは遠いサービス業

サービス業は、採算・資金繰りDIがわずかに改善した一方で、業況DIが小幅に悪化し、売上額DIは大幅に悪化した。旅館関連は、資金繰りDIがわずかに改善した一方で、売上額・業況DIが大幅に悪化。インバウンド需要は好調だが、能登半島地震により、予約キャンセルが相次いでいる。クリーニング関連は、採算DIが大幅に改善した一方で、売上額DIが大幅に悪化。旅館業での予約キャンセルがリネンの減少に繋がっており、売上が減少した、とのコメントがみられた。理・美容関連は、採算・資金繰り・業況DIがわずかに改善した一方で、売上額DIが小幅に悪化。業況は横ばいで推移している。

DI	12月	1月	前月比
売上額	169	75	▲94
採算	▲106	▲90	16
資金繰り	▲96	▲80	16
業況	▲31	▲57	▲26

#### 調査概要

- ・調査対象: 全国302商工会の経営指導員(有効回答数:226/回答率74.8%)
- ・調査時点: 2024年1月末
- ・調査方法: 対象商工会経営指導員による調査票への選択記入式

※DI(景気動向指数)は各調査項目について、増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。

